教育委員会ニュース 第 3 号

みらいをつくる

発行：泉佐野市教育委員会
教育部 【2026年10月20日】

ベトナム友好交流事業2026に行ってきました！



7月29日（水）から8月1日（土）にかけて、事前に面接等で選ばれた本市中学2年生10名が友好交流事業としてベトナム社会主義共和国ザライ省クイニョン市を訪問しました。

今回の事業にかける自身の思いや、学びたいことを整理したり、現地高校生との交流準備をすすめたり、複数回の事前学習を積み、当日を迎えました。

当日は午前7時半頃に関西空港に集合し、午前9時半頃の飛行機で日本を出発しました。ハノイから飛行機を乗り継いで、目的地に到着したのは午後7時過ぎでした。到着すると現地外務局職員がお迎えに来てくれていて、その方々の案内で現地の方がおすすめする麺店にて食事をし、ホテルへ向かい、その日を終えました。



2日目は午前6時前にロビーに集合し、ホテルの前にあるビーチで現地高校生との交流にむけて最終練習をしました。ホテルの朝食はブッフェスタイルで、ベトナムの郷土料理等もあり子どもたちも美味しそうに食べていました。朝食を済ませた後、レ・クイ・ドン高校に向かい、交流をしました。お互いの学校や文化の紹介、歌の披露もあり、子どもたちは興味深く話に聞き入っていました。最後にスポーツを通して交流した後、高校を出発しました。現地高校生や先生方がとても歓迎してくれて、心温まる時間となりました。午後からは、サイエンス・ディスカバリーセンターを見学したり、買い物をしたりしました。夜には夜市の散策もし、ベトナムの文化を楽しみました。



最終日は、水産物加工会社、古代チャンパ遺跡のバインイット塔を見学しました。水産物加工会社では、加工された物のほとんどが日本に輸出されていて、日本の回転すしチェーン店で何気なく食べている魚の切り身がはるか離れた国で、多くの人の努力で支えられ、生産されていることを知りました。

午後6時、現地空港を出発し、翌朝8時に関西空港に到着しました。初めて海外に行く経験をした子どももおり、子どもたちはとても疲れた様子でした。しかし、貴重な経験ができたことや、現地の方々との温かい交流によって、「とても素敵な旅だった」「帰って家族や友だちに伝えたい」と満足そうな表情で帰路につきました。

帰国後も交流事業で学んだことやそれに対する自分の思いを整理するなど、事後学習を積み、8月28日（金）、生徒会交流会にてその発表を行いました。家族や学校の仲間が見守る中で、子どもたちは、とても立派に発表しました。他国の文化を学ぶだけでなく、人の思いの温かさに触れるなど様々な経験を積んだ子どもたちは、身も心も一回り成長したように感じました。とても有意義な交流事業となりました。

日新小学校にてマーシャル諸島共和国とのオンライン交流会が実施されました！





10月2日（金）、3時間めと4時間めに日新小学校の6年生児童と、マーシャル諸島にある Long Island Elementary School（ロングアイランド小学校）の子どもたちとのオンライン交流会が実施されました。

マーシャル諸島共和国は太平洋の中央部に位置し、ハワイとオーストラリアの間にある人口4万人程の小さな島国です。日本からは約4500km程も離れる遠い国ですが、マーシャル諸島に在住する、元泉佐野市教職員との繋がりや、JICA（ジャイカ：国際協力機構）職員の仲介があり、今回のオンライン交流会が実現しました。

子どもたちは、学級代表が中心となり、この日のために、先生と一緒に準備をしてきました。

当日は、はじめに、お互いの小学校について紹介し合いました。学校の制服や、校舎、給食など、どれをとっても日本とはちがい、子どもたちはとても興味深くお互いの話を聞き入っていました。特に、ココナッツの葉でできた帽子をかぶって登校してくる様子は、遠く離れた国、マーシャル諸島独自の文化を感じることができました。

その後、お互いの国や文化についてクイズを出し合いました。クイズからは、マーシャル諸島がサンゴ礁からできていることなどが分かり、楽しいだけでなく、学びの大きい時間となりました。

最後に、お互いの国歌や、普段音楽の時間などで歌われている歌を披露し、交流を終了しました。お互いの様子をオンラインで映し出し、手を振ったり、笑顔で対応したり、子どもたちは終始楽しそうな様子で、とても有意義な交流の時間となりました。

【子どもたちの感想】

・日本と島国というのは同じだけど、それ以外の文化とかが違う良さがあると分かった。
・この交流会で、マーシャル諸島や、他の国々のことをもっと調べたくなった。
・日本と違うこととかがいっぱいあってやっぱり国によって違うんだなーって思った。日本と違うことで驚いたのは、土地の感じです。左右に海があって道路もまっすぐで日本とは違う土地だなーって思いました。

現在、本市小中学校にも、様々な国籍の子どもたちが多数在籍しています。本市では、すべての子どもが安心して学び、学校生活をおくるために人権教育、多文化共生教育を推進しています。人種や肌の色、国籍等によって差別することなく、多様な価値観をもって、互いを認め合う心が育まれるよう、子どもたちには発達段階に応じて様々な人や文化にふれてほしいと思っています。参加者の笑顔溢れる今回の交流事業は、子どもたちにとってその一助となる、素敵な学びとなりました。